

## パリ市の現代アートの祭典「ニュイ・ブランシュ」 ～パリ市の国際文化戦略～

パリ事務所

### 〇はじめに

パリ市では毎年、10月の第1土曜日の夜から翌日曜日の朝にかけて、現代アートの祭典である「ニュイ・ブランシュ (Nuit blanche)」<sup>1</sup>が開催されています。このイベントは、パリ市のドラノエ現市長の発案により 2002 年に始まったもので、今年は 10 回目の開催となりました。

パリ市の姉妹都市である京都市も、パリ市や在京都フランス総領事館等の後援のもと、今年、同名のイベントをパリ市と同日に開催することになりました。これを受けて、パリ市からイベントの 10 周年を祝う記念レセプションに招待され、併せてイベントを視察させていただきました。

そこで、ここではパリ市の同イベントの実施状況等についてご紹介したいと思います。



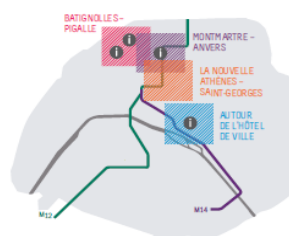
### 〇イベントの概要

イベントの概要は以下のとおりです。市内の4つのゾーンで、現代アートのさまざまな催し物が開催され、多くの人を集めていました。

1 日時 2011年10月1日(土)19時～翌2日(日)7時

2 場所(市内の4ゾーン)

- ①市中心部(パリ市庁舎周辺)
- ②市北西部(バティニョール～ピガール周辺)
- ③市北部1(ラ・ヌーベル・アテーヌ～サン・ジョルジュ周辺)
- ④市北部2(モンマルトル～アンヴェール周辺)



3 内容

- ①日本を含め世界各国から招かれた約 30 人の芸術家たちによる光と音のショー、オブジェの展示等(33点)
- ②その他催し物  
現代アートのオブジェ展示、現代アートの映像上映、写真展、ジャズコンサート、美術館・博物館の夜間開館 ほか  
(公式パンフレットに掲載されている催し物:69点)



<sup>1</sup> ニュイ・ブランシュを直訳すれば「白い夜」になりますが、いわゆる「白夜」の意味はなく、本来は「眠れない夜」といったニュアンスの言葉です。

- |             |   |
|-------------|---|
| <b>4 料金</b> | すべて無料   |
| <b>5 交通</b> | 地下鉄 12 番線と 14 番線を終日運転（深夜はイベント開催地付近の駅のみ乗降可）<br>（2日深夜2時 15 分から5時 30 分までは無料）<br>深夜バスの運行本数増 |

今では大勢の人を集める大規模なイベントとなったパリのニュー・ブランシュですが、パリ市の文化担当のジュリエット・サルザマン（Juliette SALZAMANN）女史は次のように説明しています。「10 年前の初開催の際は、人が集まるのかどうか分からず大変不安だった。しかし、それも杞憂に終わり、ふたを開けてみると大成功で、以後毎年継続して実施することになった。イベントの実施に当たっては、開催の1年前にはイベント全体をコーディネートするアートディレクターを選定し、コンセプトを明確にしたうえで、関係機関との調整を開始している。」

また、イベント開催が深夜から早朝にわたることから、一部地下鉄の終夜運行と深夜バスの増発により交通アクセスを確保するとともに、治安面については、パリ警視庁に1年前から情報を積極的に提供し、全面的な支援を得ているとのこと。

以下、視察したイベントの中から特徴的な催しを二つご紹介します。

### ○具体例①

パリ市庁舎の中庭では、イギリスの芸術家アイザック・ジュリアン（ISAAC JULIEN）氏の映像「THE LEOPARD（豹）」が上演されていました。この映像は、ヴィスコンティ監督の映画「山猫」を参考に制作されたものだそうです。なかなか難解な映像で、現代アートに暗い私には、内容をよく理解することはできませんでした・・・

普段、一般のパリ市民は市庁舎の中には入れないのですが、この日は自由に中庭に入れるとのこと。大変多くの人で賑わっていました。外には入場を待つ人の長蛇の列ができており、最後尾の人は2時間待ちの状態でした。



### ○具体例②

おしゃれなブティックが多く若者に人気のマレ地区界隈にあるユダヤ教芸術歴史博物館の中庭では、ポーランドの芸術家ミロスロー・バルカ（MIROSLAW BALKKA）氏の「HEAVEN,2010」と題された光のオブジェが展示されていました。これは68本のらせん状のプレキシガラス



(アクリル樹脂)の棒を会場上方からつるしたもので、この棒を回すと、ガラスに反射する光が、棒の回し方によって上方または下方に動いて見えるという趣向のものでした。来場者は思い思いに棒を回し、不思議な光のハーモニーを楽しんでいました。

## ○イベント開催経費と経済波及効果

2年間の日本滞在経験を持つパリ市のクリストフ・ジラルド(Christophe GIRARD)副市長(文化担当)によると、イベント開催に係る経費は約120万ユーロ(約1億3千万円)とのことです。この費用を高いとみるか低いとみるかは評価が分かれるところですが、副市長は「市民全員がコーヒーを一杯飲むより安上がりだ」と誇らしげに述べていました。また、ジュリエット・サルザマン女史によると、費用の約3割は民間企業からの寄付金で賄っているとのことです。当年のイベントが終了した直後から、翌年のイベント開催に向けて民間企業を回り、寄付金を集めているとのことです。その背景には、ヨーロッパにおける企業のメセナ活動<sup>2</sup>が古くから盛んなことがあるようです。



新聞報道によると、今年のヌイ・ブランシュには250万人の人が集まったとのこと



でした。確かに当日はどこの会場も入場を待つ大勢の人の行列ができており、入場まで1時間以上待たないといけない場所もたくさんありました。また、会場周辺のエリアには大勢の人が集い、エリア内のカフェやレストランの多くも深夜まで開いており、とても賑わっていました。ヌイ・ブランシュは一夜限りのイベントですが、現代アートの発信の場としての役割だけにとどまらず、その経済波及効果も相当のものがあるようです。

## ○世界に広がるヌイ・ブランシュ

パリ市で10年前に始まったヌイ・ブランシュですが、今ではフランス国内外の多くの街で同様のイベントが開催されています。フランス国内では、パリ市周辺の28のコミュン(日本の市町村に相当)が、またそれ以外の地域ではメッツ等の6自治体がパリと同様のイベントを開催しており、国外では、今年初開催となった京都市やブエノスアイレスを含め計22の地域でヌイ・ブランシュが開催されています。

パリ市は、同市のネーミングによるイベント「ヌイ・ブラン



<sup>2</sup> 企業が資金を提供して、文化芸術活動を支援すること。

シュ」が世界中に広まることを望んでおり、そのための協力や情報提供は惜しまない姿勢のようです。パリ市の担当者は否定していましたが、ニューヨークやロンドン等との国際的な都市間競争で生き残っていくため、パリ市が文化首都としての新たなイニシアチブを取っていこうとする意向が、今回の視察を通じて強く感じられました。

- ・パリ市のニューイ・ブランシュ（仏語）

<http://www.paris.fr/loisirs/les-grands-rendez-vous/nuits-blanches/p6806>

- ・京都市のニューイ・ブランシュ

<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000106332.html>

<http://www.nuitblanche.jp/>

(山口所長補佐 京都市派遣)

